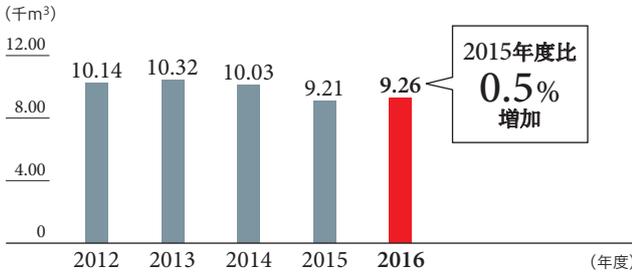


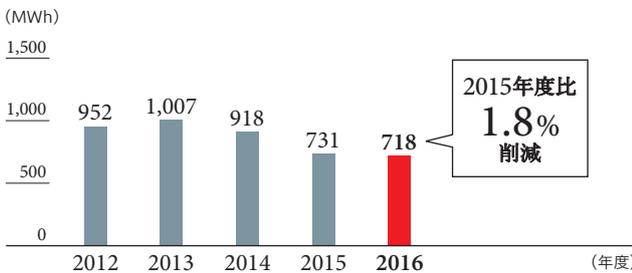
# その他の環境データ

## オフィスにおける環境保全

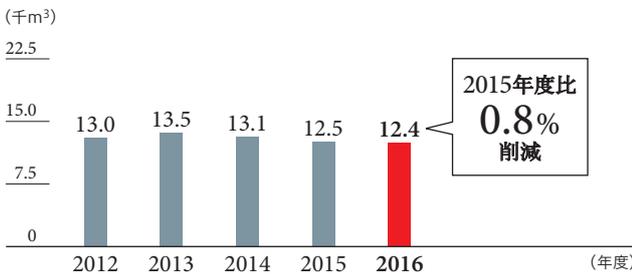
水資源使用量と原単位



オフィスでの電気使用量

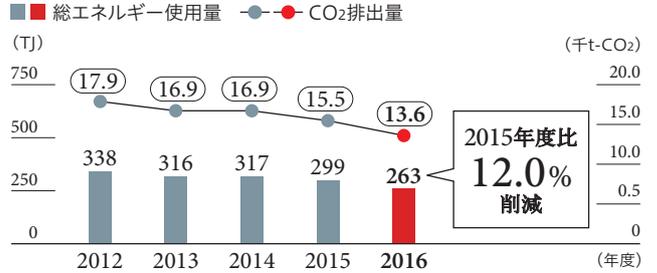


オフィスでのガス使用量

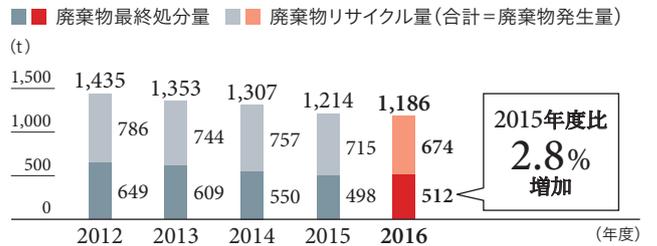


## ショッピングセンターでの環境保全

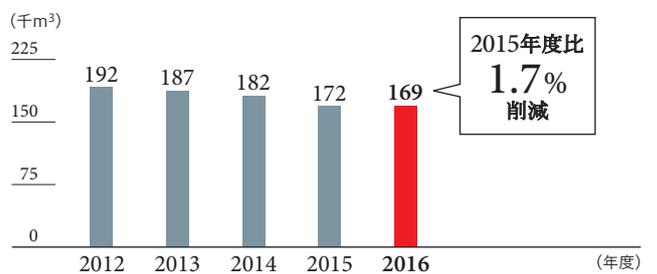
ショッピングセンターでの総エネルギー使用量・CO<sub>2</sub>排出量



ショッピングセンターでの廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



ショッピングセンターでの用水使用量



## 環境保全活動のあゆみ

1993	●「地球環境委員会」を設置
1997	●ビジネスユニフォームでの「エコマーク」第1号取得 ●PETボトルリサイクル繊維を使用した「エコロジア企画」商品を販売開始
1998	●ウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築
1999	●「環境自主行動計画」を策定 ●「地球環境保全中期計画」を策定開始
2000	●印南工場でISO14001を認証取得
2001	●岐阜工場でISO14001を認証取得 ●アンピック(株)でISO14001を認証取得 ●アカツキ商事(株)でISO14001を認証取得 ●佐藤産業(株)でISO14001を認証取得
2002	●(株)ナカヒロでISO14001を認証取得 ●印南工場にてNEDOとの共同研究で太陽光発電システムの実証実験を実施

2004	●(株)ニッケ機械製作所でISO14001認証取得 ●上海高織制紐有限公司でISO14001を認証取得
2005	●環境報告書発行開始 ●(株)ゴーセンでISO14001を認証取得
2012	●太陽光発電システムの1号拠点を稼働(ニッケパークタウン) ●「環境データ集」として、冊子を廃止しウェブサイトのみに変更
2013	●ニッケまちなか発電所明石土山にて売電事業を開始
2014	●広域認定制度の認定取得 ●着用済みユニフォームのリサイクルシステム「エコシップ」の設立
2015	●(株)アンピックで排水リサイクル設備の導入 ●印南工場でガスコージェネレーションシステムの導入

## 環境報告ガイドライン対照表

環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)との対照表

項目	環境データ集 2016 該当ページ
<b>1. 環境報告の基本的事項</b>	
<b>1. 報告にあたっての基本的要件</b>	
(1) 報告対象組織の範囲・対象期間	P.2
(2) 対象範囲の補足率と対象期間の差異	P.2
(3) 報告方針	P.2
(4) 公表媒体の方針等	P.2
<b>2. 経営責任者の緒言</b>	P.3
<b>3. 環境報告の概要</b>	
(1) 環境配慮経営等の概要	P.1-2
(2) KPIの時系列一覧	P.12
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	P.9
<b>4. マテリアルバランス</b>	P.12
<b>2. 環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況</b>	
<b>1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等</b>	
(1) 環境配慮の方針	P.9
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	P.9
<b>2. 組織体制及びガバナンスの状況</b>	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	P.9
(2) 環境リスクマネジメント体制	P.10
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	P.11
<b>3. ステークホルダーへの対応の状況</b>	
(1) ステークホルダーへの対応	P.11
(2) 環境に関する社会貢献活動等	P.11、P.19-20
<b>4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況</b>	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	—
(2) グリーン購入・調達	P.11
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	P.17-18
(4) 環境関連の新技術・研究開発	P.17-18
(5) 環境に配慮した輸送	P.13
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発／投資等	P.11
(7) 環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	P.18

項目	環境データ集 2016 該当ページ
<b>3. 事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況</b>	
<b>1. 資源・エネルギーの投入状況</b>	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	P.12、P.13
(2) 総物質投入量及びその低減対策	P.12、P.13
(3) 水資源投入量及びその低減対策	P.12、P.13
<b>2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)</b>	P.12、P.14
<b>3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況</b>	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	P.12
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	P.12、P.13
(3) 総排水量及びその低減対策	P.12、P.16
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	P.12、P.16
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	P.12、P.15
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	P.12、P.14
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	P.10、P.15
<b>4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況</b>	P.11
<b>4. 環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況</b>	
<b>1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況</b>	
(1) 事業者における経済的側面の状況	P.10
(2) 社会における経済的側面の状況	—
<b>2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況</b>	
(組織統治等)	P.5-6
(人権)	—
(労働慣行)	—
(消費者保護・製品安全)	—
(地域・社会)	P.7-8
(その他)	—
<b>5. その他の記載事項等</b>	
<b>1. 後発事象等</b>	
(1) 後発事象	—
(2) 臨時的事象	—
<b>2. 環境情報の第三者審査等</b>	—